

令和6年度 学校教育自己診断

生徒

保護者

教員

(%)

令和6年10月17日実施

	肯定値					肯定値					肯定値					分析	
	2024	前年度比	2023	前年度比	2022	2024	前年度比	2023	前年度比	2022	2024	前年度比	2023	前年度比	2022		
全般	学校に行くのが楽しい。					子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている。										学校に行くのを楽しみにしている生徒が多く喜ばしく思うが、一方で特色のある学校づくりが本校の課題であるといえる。生徒会行事や探究活動など、生徒の活動の中で特色ある学校づくりを行う必要があると考える。また、生徒に対する教員の姿勢として、1・3年生と2年生を比較すると約14ポイントと大きく差が開いている。今後、生徒の意見を聞く姿勢を見直し、生徒と向き合い、よりよい学校づくりを進める。	
	全体	87.0				84.1	△ 1.5	82.7	△ 3.0	79.6							
	1年	86.3															
	2年	86.7															
	3年	88.1															
	この学校には、他の学校にない特色がある。					この学校には、他の学校にない特色がある。											
	全体	60.8				45.0											
	1年	66.8															
	2年	52.2															
	3年	62.3															
	先生は生徒の意見をよく聞いてくれる。					先生は子どもの意見をよく聞いてくれる。											
	全体	79.6				73.8											
1年	83.5																
2年	69.8																
3年	84.2																
授業	教え方に工夫があり、独自の教材やPC等情報機器を活用し、画像や動画でわかりやすく説明してくれている。					子どもは、教え方に工夫があり、分かりやすく説明してくれている先生が多いと言っている。					教え方の工夫を目的とした、独自の教材や情報機器の活用や画像・動画で分かりやすく説明している。					教材や情報機器の活用に一定の評価があるものの、生徒による評価が低下していることから、活用方法・活用度合いに差があることが考えられる。また、発表の機会が減少しているとの意見が多いため、特に1年生には発表の場を増やし、意見交換の機会を多様化することが求められる。今後、生徒端末(クロームブック)を効果的に使う研修や、授業・課題設計の情報交換を増やし、教職員間で話し合う機会の増加を図る。評価に関しては、生徒と教員間で納得感がある。	
	全体	80.3	▲ 16.1	96.4	△ 4.0	92.4	52.7	▲ 8.0	60.8	△ 0.4	60.4	93.5	▲ 0.6	94.1	▲ 4.0		98.1
	1年	78.5	▲ 15.7	94.2	△ 2.0	92.2											
	2年	79.2	▲ 17.0	96.2	△ 0.6	95.6											
	3年	83.0	▲ 17.0	100.0	△ 10.4	89.6											
	授業中や課題のために生徒1人1台端末を効果的に活用している。					授業中や課題のために生徒1人1台端末を効果的に活用している。					授業中や課題のために生徒1人1台端末を効果的に活用している。						
	全体	67.1	▲ 20.2	87.2	△ 5.5	81.7	67.7					47.8					
	1年	69.9	▲ 16.1	86.0	▲ 1.0	87.0											
	2年	69.5	▲ 20.6	90.0	△ 2.4	87.7											
	3年	62.2	▲ 22.1	84.3	△ 13.1	71.2											
	授業で自分の意見をまとめたり、発表する機会がある。					子どもは、授業で自分の意見をまとめたり、発表する機会があると言っている。					授業で生徒に自分の意見をまとめたり、発表させる機会を提供している。						
	全体	72.9	▲ 20.4	93.3	△ 2.0	91.3	54.3					87.0					
1年	69.1	▲ 25.0	94.1	△ 3.8	90.3												
2年	70.8	▲ 20.7	91.5	▲ 4.7	96.3												
3年	78.5	▲ 16.5	95.0	△ 7.4	87.6												
学習の努力を認めてくれていて、評価についても納得できる。					子どもの学習の努力を認めてくれていて、評価についても納得できる。					生徒の学習の努力を認め、評価についても納得できる内容となっている。							
全体	85.1				83.8						91.3						
1年	85.5																
2年	82.7																
3年	86.8																
授業はわかりやすく興味を持たせてくれている。																	
全体	71.8																
1年	73.4																
2年	63.6																
3年	77.2																
										授業改善を目的とした教職員間の検討する機会を持っている。							
											68.1	▲ 9.9	78.0	△ 12.6	65.4		
探求	自分は自分の良いところを将来の夢や目標に向け、学校等で活かそうと努力している。															前年度よりも全体の肯定値が5%上昇し、88%となっている。現在の教材を使用して4年になるが、年度ごとに少しずつブラッシュアップした結果が、この数値に表れていると考えられる。次年度以降は新たな探究の形となるが、発展的解消であるため、現在のもの上手く活用できる部分は活用する。	
	全体	88.0	△ 4.4	83.5													
	1年	85.8	△ 5.6	80.3													
	2年	88.5	△ 7.7	80.8													
	3年	89.6	▲ 2.9	92.5													

	肯定値					肯定値					肯定値					分析	
	2024	前年度比	2023	前年度比	2022	2024	前年度比	2023	前年度比	2022	2024	前年度比	2023	前年度比	2022		
生徒会	生徒会の諸行事は、生徒によって自主的に運営されている。					生徒会の諸行事は、生徒によって自主的に運営されていて楽しめている。					生徒会の諸行事は、生徒によって自主的に運営されていて生徒自身が楽しめている。					生徒会の諸行事について、生徒、保護者、教員結果において80%以上の数値であった。教員においては昨年度、一昨年度よりも10%ほど高い数値であったが、今年度の3年生が中心となって作りあげてくれた体育祭、文化祭の雰囲気の数値として現れていると考えられる。次年度以降は生徒会に関わる生徒を選挙とは別で公募するなどして、更なる活性化をはかりたい。 部活動について、生徒結果において、昨年度までの90%前後の数値であったが、金岡高校の現状（部活動加入率約50%）を踏まえ、今年度の70%という数値のほうが適正に近いと考える。保護者と教員の結果はともに58%となっており、客観的な視点からの数値の方がより適正であると考えられる。	
	全体	86.6	▲ 2.6	89.2	△ 8.2	81.0	85.2	▲ 5.1	90.3	△ 5.7	84.6	81.6	△ 9.1	72.5	△ 3.3		69.2
	1年	88.6	▲ 4.2	92.8	△ 2.5	90.3											
	2年	85.4	▲ 2.0	87.4	△ 5.7	81.6											
	3年	85.7	▲ 1.6	87.3	△ 15.6	71.8											
	部活動は活発で、積極的に参加している。					子どもは、積極的に部活動に参加している。					部活動は活発で、生徒は積極的に参加している。						
	全体	69.2	▲ 23.0	92.2	△ 2.5	89.7	57.7					58.0	▲ 28.0	86.0	△ 1.1		84.9
	1年	67.3	▲ 26.4	93.7	△ 4.8	88.8											
	2年	66.7	▲ 22.9	89.6	▲ 1.4	91.0											
	3年	73.3	▲ 21.1	94.3	△ 5.1	89.3											
地域や社会で貢献できる内容の学びがある。																	
1年	76.8																
2年	76.4																
3年	77.3																
全体	76.9																
生活指導	生徒は生活規律（遅刻等）や学習規律（授業態度等）などの基本的習慣の指導を守っている。					学校では生活規律(遅刻等)や学習規律(授業態度等)などの基本的な生活習慣の確立に力を入れている。					生徒は生活規律(遅刻等)や学習規律(授業態度等)を守っている。					交通マナーについて、生徒のマナー意識は高いが、教員側からの目線では改善が必要との結果である。全教員からも様々な機会でも、ルール厳守・マナー向上を伝えていかねばならない。 その他項目については、「生徒指導・生活指導」分野の結果については、生徒には納得感のある値といえるのではないかと。	
	全体	90.3	▲ 5.8	96.1	△ 1.1	95.0	90.5	▲ 2.6	93.1	△ 2.8	90.3	79.6	▲ 18.4	98.0	△ 9.4		88.7
	1年	91.8	▲ 5.1	96.9	▲ 1.3	98.1											
	2年	85.8	▲ 9.6	95.4	△ 1.7	93.7											
	3年	92.7	▲ 3.6	96.3	△ 2.9	93.4											
	生徒は交通マナーを守っている。											生徒は交通マナーを守っている。					
	全体	86.4	▲ 1.5	87.9	△ 0.3	87.6						60.0	▲ 8.6	68.6	▲ 10.6		79.2
	1年	91.8	▲ 0.1	91.9	▲ 0.3	92.2											
	2年	83.2	▲ 2.3	85.4	▲ 3.2	88.6											
	3年	83.8	▲ 2.5	86.3	△ 4.0	82.3											
					学校の生徒指導方針に共感できる。												
					72.2	▲ 12.6	84.9	△ 5.8	79.1								
進路	進路に関する情報は十分に提供されている。					進路に関する情報は十分に提供されている。					本校は生徒一人ひとりが興味・関心・適性に応じて進路選択ができるよう、指導を行っている。					進路に関する情報に関して、パンフレットの全学年設置2年目、保護者説明会動画の全学年公開・懇談期間までの延長、1・2年生への情報提供機会も行った。3学年とも生徒への肯定値90%以上を維持できている。これは学年進路からの進路情報が生徒に伝わっていると考えられる。今回から保護者の肯定値が73.7%と、生徒の肯定値と隔たりがある。今後は、保護者にもより進路に関する情報提供を確かなものにするため懇談でのスタディサポートの活用、学年だよりに進路情報を掲載、さくら連絡網での進路行事の連絡を行い、きめ細かい指導を継続していく。 卒業後の進路についての時間等に関して、前年度までは、保護者のみ自己診断していた項目である。前年度より低下しているが、その要因は、保護者への情報提供が確実に生徒から保護者に伝わっていない可能性がある。改善するために、保護者への周知機会を充実させる方向をとりつつ、一番は生徒の充実度の向上を軸に改善をめざしたい。	
	全体	92.0				73.7						87.5	▲ 2.5	90.0	▲ 0.6		90.6
	1年	94.1															
	2年	90.6															
	3年	91.2															
	卒業後の進路について、十分に考える時間や説明がなされた指導を行っている。					卒業後の進路について、十分に考える時間や説明がなされた指導を行っている。					卒業後の進路について、十分に考える時間や説明がなされた指導を行っている。						
	全体	89.8					73.9	▲ 10.8	84.7	△ 0.3	84.4	77.6					
	1年	89.8															
	2年	90.2															
	3年	89.5															
教育課程	コースや選択科目は自分の進路に合っている。					コースや選択科目は子どもの進路に合っている。					コースや選択科目は生徒の進路に合っている。					本校の卒業生の進路は多岐にわたっており、生徒一人一人の進路実現のため、3年次において進路に合わせたコースを設定している。生徒や保護者の肯定値は85%以上と高く、教員の肯定値も70%であり、十分理解されていると考えられる。	
	全体	89.4				84.1					69.4						
	1年	90.2															
	2年	85.3															
	3年	92.3															

	肯定値					肯定値					肯定値					分析	
	2024	前年度比	2023	前年度比	2022	2024	前年度比	2023	前年度比	2022	2024	前年度比	2023	前年度比	2022		
国際交流	学校は語学研修や国際交流（国際理解教育）を積極的に進めている。					本校は語学研修や国際交流（国際理解教育）を積極的に進めている。					本校は語学研修や国際交流（国際理解教育）を積極的に進めている。					新型コロナウイルス感染症で実施できなかったオーストラリアへの語学研修を今年度、堺東高校、東百舌鳥高校との合同開催という形で再開した。人数枠が決まっていたため9名の希望者に対し7名の参加となった。次年度は単独開催を企画しており、生徒・保護者への案内に力を入れて、参加者を確保・拡大する。また、さらに国際理解教育を進めるため、参加生徒に対する事前指導に、不参加の生徒も参加可能とするなど、機会を拡充する等の企画が必要である。	
	全体	76.1				64.8					79.2						
	1年	75.5															
	2年	80.0															
	3年	73.3															
人権	命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。					学校は命を大切にすることや社会ルールを守る態度を育てようとしている。					本校の人権教育は命の大切さや社会のルールについて学ばせていて、生徒の人権意識の向上に役立っている。					生徒や保護者の肯定値が高いのは個々の教員が授業や生徒指導などそれぞれの持ち場で、または保健部や生徒指導部などの分掌の活動で適切に教育活動を行っている成果だと思われる。一方、相対的に教員の肯定値が低いのは、これらのテーマに対して学校全体、あるいは教員全体として取り組んでいるという実感が不足していることが原因だと思われる。 全体の肯定値をさらに高めるためには、年度当初に目標を定めてやるべきことを決定し、それを教員全体で取り組み、進捗状況を年度途中に1～2度検証する機会を設けて、改善を図る必要がある。 ハラスメント対策（体制）については肯定値が低い値になっており、事象が大きくなる前の段階でも、様々なハラスメントに対応して、気軽に相談できる体制を整える必要がある。	
	全体	86.0	▲ 6.9	92.9	△ 7.7	85.1	81.4	▲ 5.4	86.8	△ 1.5	85.3	74.5	▲ 0.0	74.5	△ 11.0		63.5
	1年	89.1	▲ 4.7	93.7	△ 4.5	89.2											
	2年	86.7	▲ 5.2	92.0	△ 0.4	91.5											
	3年	82.3	▲ 10.8	93.1	△ 18.0	75.2											
いじめ	学校は、いじめについて困っていることがあれば対応してくれる。（あるいは、いじめはないと思う）					学校は、いじめについて困っていることがあれば対応してくれる。（あるいは、いじめは無いと思う）					学校は、いじめについて困っていることがあれば迅速に対応している。（あるいは、認知するいじめは無い）					教員については95%超まで肯定値が上昇しており、いじめの状況を早く捉え、情報共有して組織的に対応するという意識の定着を反映していると考えられる。しかし生徒については、教員が考えているよりも低い肯定値になっている。より信頼されるために、普段からすべての教員が生徒の様子を見守る姿勢を示す必要がある。また、人間関係の変化等に繊細な生徒も年々増えており、教育相談等とも連携して、生徒の小さな変化も見逃さない体制をつくる必要がある。保護者に対しては、いじめ等アンケート実施の際に、相談窓口を作っていること等の取組をさらに周知し、理解を得たい。	
	全体	93.1	▲ 0.3	93.4	△ 2.6	90.8	82.6	▲ 2.0	84.6	△ 0.9	83.6	95.8	△ 5.8	90.0	△ 1.8		88.2
	1年	94.9	△ 1.2	93.7	△ 0.8	92.9											
	2年	92.4	▲ 1.0	93.5	△ 1.6	91.9											
	3年	91.9	▲ 1.2	93.1	△ 5.2	87.9											
教育相談	担任の先生以外にも相談することができる先生がいる。					子どもは、担任の先生以外にも相談することができる先生がいると言っている。					生徒は、担任の先生以外にもカウンセリングマインドを持って相談することができる先生がいる。					・過去2年間は、1年生に“相談することができる先生がいる”と感じている生徒が少ない。入学してからの期間が短く教員との距離が縮まっていないことや、他学年と比較して教員に相談する事象が少ないことが理由と考えられる。また、保護者のポイントが低い点に関しては、家庭で話をする際にそういった内容を話題にすることが少ないことが考えられる。 今後は教育相談や相談室開放等の相談機会があることを1年に重点的に周知することで、相談することができるという意見のポイントアップに繋げていく。また、同時に保護者に対しての周知も積極的にを行い、相談の機会があることを保護者にも理解いただいたうえで、必要に応じ保護者からも勧められるような体制を作っていく。	
	全体	82.1	▲ 1.1	83.2	△ 4.6	78.6	60.5					87.5	▲ 4.5	92.0	△ 1.6		90.4
	1年	72.5	▲ 7.2	79.7	△ 7.0	72.8											
	2年	82.2	△ 2.1	80.1	▲ 5.7	85.8											
	3年	91.5	▲ 1.6	93.1	△ 15.9	77.2											
渉外						学校からの連絡事項は適時伝わっている。					教育活動に必要な情報発信について、生徒・保護者及び地域への周知に努めている。					保護者の肯定値が上昇しているのは、さくら連絡網が定着し、保護者への連絡が即時、直接的に行えるようになったことが大きい。 教員については、地域への周知・発信ができていないという意識を反映して低くなっているものと考えられる。地域への広報活動が課題である。	
	全体					86.2	△ 5.2	81.0	△ 8.6	72.5	85.1	▲ 3.1	88.2	▲ 2.1	90.4		
施設整備	生徒は校内美化に努めている。					学校は施設の修繕や校内美化に努めている。					学校は施設の修繕や校内美化に努めている。					昨年度よりも生徒だけでなく教員の意識も全体的に下がっており、施設の修繕や美化活動に対する取り組みに対して不満があることが示唆される。教員と生徒が協力して校内美化に取り組む意識を高める必要がある。	
	全体	76.3	▲ 8.7	85.0	△ 6.4	78.6	61.3					56.0	▲ 20.5	76.5	△ 3.4		73.1
	1年	76.4	▲ 12.9	89.2	△ 11.5	77.7											
	2年	77.4	▲ 1.5	78.9	▲ 1.8	80.7											
	3年	75.3	▲ 14.0	89.2	△ 11.8	77.4											
P T A	学校の行事等に参加したことがある。										69.4					コロナ後、行事への参加は増加傾向にあるが、より参加しやすい形態・時期を精査し、諸行事を設定したい。	
	全体											△ 15.6	53.8	△ 26.4	27.4		
学校運営	学校のP T A活動は適切である。										84.6						
	全体											▲ 3.5	88.1	△ 3.2	84.9		
	1年											△ 17.3	66.0	△ 4.5	61.5		
	2年											△ 10.2	51.0	△ 2.9	48.1		
	3年											▲ 3.0	51.0	△ 2.9	48.1		
校運	校長は教職員が意欲的に取り組める組織や環境作りがなされ、各分掌・学年間が円滑に連携し、機能している。										48.0						
	全体											▲ 0.6	68.6	△ 2.6	66.0		